

2 国政について

選挙に行こう！政治を変えよう！⑦

設問③ 並行在来線、JR小浜線・越美北線対策

立憲民主党 野田 富久候補(福井1区)	日本共産党 金元 幸枝候補(比例)	自由民主党 山本 拓候補(比例)
<p>並行在来線は運行の効率化や私鉄とJR 越美北線・小浜線の連携・連結を検討する。</p> <p>福武線と第3セクターとの在り方を検討する。運賃については学割などの拡大。</p>	<p>延伸開業も迫る新幹線ですが、行政として莫大な予算を投入しながら、一方では特急の廃止、運賃の引き上げ、減便など、市民生活に与える負の影響への不安ばかりが実感されます。こうした状況下で日本共産党は、福井県、沿線自治体に対して特急存続、減便計画の見直し、切符販売の継続などを訴え、このうち切符販売については継続されることになりました。</p> <p>市民が必要とする移動手段の確保は、国も責任を果たすべき分野です。小浜線、九頭竜線の存続、平行在来線も含む運賃の据え置き、無人駅の解消などを基本線として求めつけるとともに、運賃など引き上げがなされたときには県、各自体レベルにおいて負担軽減措置を講じていくことを訴えています。</p>	<p>北陸新幹線の整備については、金沢・敦賀間の令和5年度末までの完成・開業に向けた着実な整備を進めます。併せて、敦賀・新大阪間の令和5年度当初の着工に向けた環境影響評価を着実に進めるとともに、安定的な財源見通しの確保を含む着工5条件の早期解決を図ります。</p> <p>また、コロナ禍で影響を受ける地域鉄道の安定的な事業継続に向けた環境を整備し、地域の生活交通の将来にわたる維持・確保や利便性の向上に努めます。</p>

設問④ 原発再稼働について

立憲民主党 野田 富久候補(福井1区)	日本共産党 金元 幸枝候補(比例)	自由民主党 山本 拓候補(比例)
<p>老朽化原発の再稼働については、250～300度、150気圧の压力容器(15センチ幅の合金)に中性子照射に安全性は？実効性のある避難計画は安全か。原子力発電所のない社会を目指します。</p>	<p>福島における原発事故以後の経過、今現在の実態を見ても、いったん事故を起こせば広範かつ長期間に及ぶ深刻な被害をもたらす原発、事故を起こさずとも常に深刻な放射能汚染の脅威を常にはらむ原発は、人間の営みと共存することは出来ません。</p> <p>国は、老朽原発の再稼働とさらなる長期運転の枠組み作り、原発の新増設、建て替えも見込んだエネルギー政策を方針として掲げますが、容認することは出来ません。</p> <p>私たち日本共産党は原発ゼロの決断のもとに、再生可能エネルギーへと切り替えていくこと、開発普及による新たな雇用機会の創出、産業化こそが、子どもたちの将来に責任を果たすことになると考えます。</p>	<p>政府及び事業者が原子力発電の安全神話に陥り悲惨な事故を招いたことに対する反省の上に立ち、原子力の社会的信頼の獲得に向けて、最大限の努力を続けなければなりません。</p> <p>原子力の活用にあつては、いかなる事情よりも安全性をすべてに優先し、原子力規制委員会が世界で最も厳しい水準の規制基準に適合すると認めたものについて、国民の理解を得ながら再稼働を進めます。</p>

設問⑤ 改憲および「核兵器禁止条約」の批准について

立憲民主党 野田 富久候補(福井1区)	日本共産党 金元 幸枝候補(比例)	自由民主党 山本 拓候補(比例)
<p>被爆国、福島原発事故の被爆体験から、核は人類と共存しえないとの認識で、当然条約の批准をすべき。</p>	<p>戦禍に怯えることない時代をしっかりと次の世代へ引き継いでいくことは、今の時代に生きる私たちの責任です。そのため、戦争行為をおこなわぬ誓いとしての憲法9条は、傷つけることも軽んじることもしてはいけなく考えます。</p> <p>そうした不戦の誓いを広く世界に発信していくため、唯一の被爆国として核兵器への警鐘を鳴らし続け、この脅威を取り除いていくため、核兵器禁止条約を速やかに批准していくことを強く求めてまいります。</p>	<p>わが国は、唯一の戦争被爆国として、核兵器のない世界の実現に向けた国際社会の取組をリードする使命を有しており、核兵器のない世界の実現に向けて、しっかりと取り組んでまいります。</p> <p>核兵器禁止条約は、このような取組の出口とも言える重要な条約です。ただし、現実に核軍縮を進めていくためには、核兵器を現に保有している核兵器国を巻き込む必要があります。しかし、核兵器禁止条約には核兵器国は一概に参加していません。また、わが国周辺には、北朝鮮の核・ミサイル開発などの不透明・不確実な要素が存在しており、わが国の安全保障を確保するためには、米国による核抑止力が不可欠でもあります。</p> <p>安全保障上の脅威に適切に対処しながら、核兵器国の関与を引き出し、現実的に核軍縮を前進させる道筋を追求していくことが重要と考えます。</p>